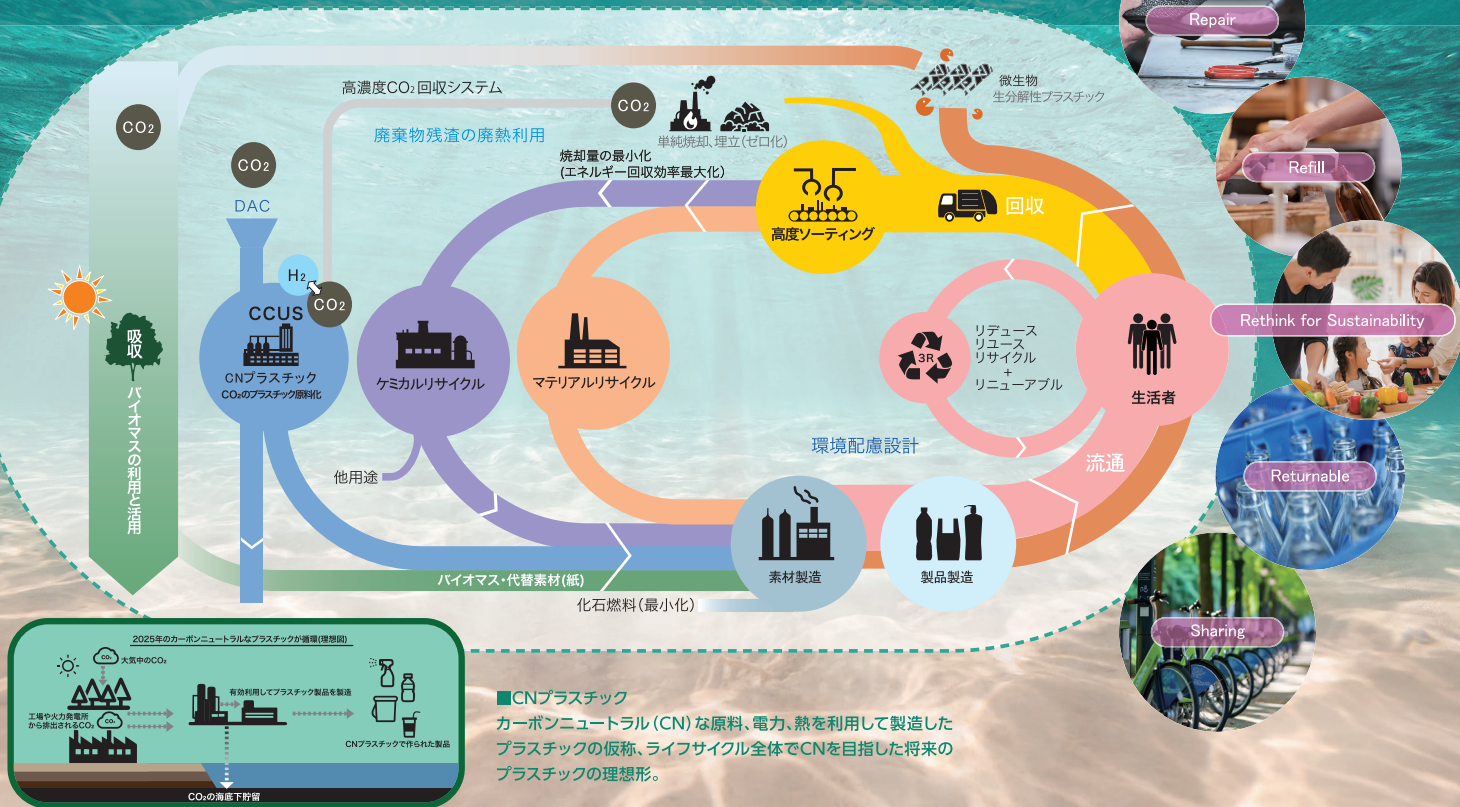


# CLOMAの目標

CLOMAは、海洋プラスチックごみの削減に貢献するため  
2050年までに容器包装等のプラスチック製品100%リサイクルを目指します。

## カーボンニュートラル・ネイチャーポジティブの達成に貢献

日本版プラスチック資源循環を通じてサーキュラーエコノミーを推進し、化石資源の利用を減らし、バイオマス等の非化石資源への原料転換や燃料転換を進めることでカーボンニュートラルに寄与し、生物多様性の損失を防ぎます。また生活者のライフスタイルが資源をよりサステナブルに利用する方向に転換するようサポートすることを通じて、環境へのプラスチックごみの流出を防ぐことでクリーンオーシャンを実現し、ネイチャーポジティブにも貢献でき



## 基盤活動とアクションプランで取り組む

	2019/1	2020/5	…2030	…2050
課題別の活動		<b>&lt;CLOMAアクションプラン&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ プラスチック使用量削減</li> <li>◆ マテリアルリサイクル率の向上</li> <li>◆ ケミカルリサイクル技術の開発・社会実装</li> <li>◆ 生分解性プラスチックの開発・利用</li> <li>◆ 紙・セルロース素材の開発・利用</li> <li>◆ 分別回収システムの高度化</li> </ul>		
		課題提議	ソリューション	
基盤の活動	<b>&lt;普及促進部会&gt;</b> ビジネスマッチングセミナー、シーズ/ニーズデータベース、展示会			
	<b>&lt;技術部会&gt;</b> 技術交流会、技術セミナー、プラスチックリサイクルデータ分析WG			
	<b>&lt;国際連携部会&gt;</b> 国際団体ネットワーク、インドネシア協力WG			
				社会システム提案 → グローバル展開





# CLOMAと神戸市が進める 乳酸菌飲料容器回収・再資源化プロジェクト

ふたば  
資源回収  
ステーション  
(神戸市長田区)



あづま  
資源回収  
ステーション  
(神戸市中央区)



たかくらだい  
資源回収  
ステーション  
(神戸市須磨区)



たまつ  
資源回収  
ステーション  
(神戸市西区)



## 川崎臨海部企業の連携による廃プラスチック循環実証を開始します Kawasaki Circular Design Park supported by CLOMA

川崎市は、川崎臨海部をフィールドに花王株式会社、メビウスパッケージング株式会社、J&T 環境株式会社、株式会社 J サーキュラーシステムの 4 社とともに、国内最大級の海洋プラスチック問題に取り組む団体「Japan Clean Ocean Material Alliance (CLOMA)」と連携する業種横断の廃プラスチックの循環実証を令和 6 年 1 0 月から開始します。

4 社及び川崎市は、令和 6 年度の実証内容において、川崎市が回収した廃プラスチックを活用し、選別とペレット化を行い、製品評価と課題の洗い出し、更なる実証内容の検討を行います。

また、この取組を起点に川崎臨海部エリアでのサーキュラーエコノミーの取組を「Kawasaki Circular Design Park」\*として、一体的に情報発信するとともに、新たな企業間プロジェクトの組成に繋がるよう伴走支援を行います。

川崎市は、これまで令和 4 年 3 月に策定した「川崎カーボンニュートラルコンビナート構想」に基づき、廃プラスチックや CO<sub>2</sub> といった炭素を含むものを資源として捉え、循環させることで新たな化石資源を増やさない炭素循環型のコンビナートの構築とサーキュラーエコノミーの実現を目指した取組を進めています。

令和 4 年 4 月には、「かわさきプラスチック循環プロジェクト（かわプラ）」を設立し、川崎市をフィールドに市民・事業者・行政の協働によるプラスチック循環を目指すなどの取組を通じて、市域の資源循環の仕組みづくりを推進しております。本実証は「かわプラ」の取組とも連携しながら進めます。

### 問合せ先

<本実証、Kawasaki Circular Design Park に関すること>

川崎市臨海部国際戦略本部成長戦略推進部 江崎

電話 044-200-2095

<かわさきプラスチック循環プロジェクトに関すること>

川崎市環境局生活環境部廃棄物政策担当 山田

電話 044-200-2557

## 1 実証メンバーと役割



## 2 令和6年度の実証内容（予定）

- (1) 川崎市が回収した廃プラスチックを提供
- (2) 製品利用に適したプラスチックの選別、ペレット化
- (3) ペレットの性状評価、課題の洗い出しと更なる実証内容の検討

## 3 スケジュール（予定）

令和6年 10月～ 再生材の対象となるプラスチックの選別（2～3回）

2月～ ペレット化及び性状評価、次年度実証内容の検討

令和7年 4月～ 分析、評価の継続、必要に応じて、新たな技術、選別方法の洗い出し

（CLOMAとの情報交換、実証への参加、連携の拡大）



### ※「Kawasaki Circular Design Park」

川崎臨海部エリアでものづくりの設計段階から循環型の仕組みづくりに挑戦する企業が連携して実施する取組を新たに「Kawasaki Circular Design Park」として推進

機能1 サークュラーエコミーのものづくりを「一連の輪」として情報発信

機能2 サークュラーエコミーの産業創出に繋がるプロジェクトを組成、伴走支援



2024年6月20日

PRESS RELEASE

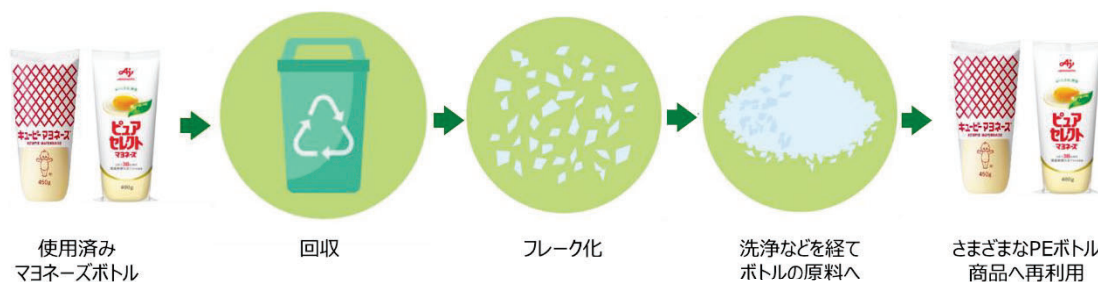
キューピー株式会社  
味の素株式会社

— 資源循環型社会の実現を目指して —

## キューピー(株)と味の素(株)が マヨネーズボトルの資源循環に向けて協働を開始

キューピー株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役 社長執行役員:高宮 満、以下キューピー(株))と味の素株式会社(本社:東京都中央区、取締役 代表執行役社長 最高経営責任者:藤江 太郎、以下味の素(株))は、両社が参画する海洋プラスチックごみ問題の解決に向けて官民連携で取り組む、業種を越えたプラットフォーム「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス」(英文名:Japan Clean Ocean Material Alliance、以下CLOMA)の活動として、マヨネーズボトル<sup>※1</sup>の資源循環に向けた協働を開始します。

※1 マヨネーズ(JAS規格)以外の半固体状ドレッシングなどのボトルも対象になります。例)「キューピーハーフ」「ピュアセレクト® コクうま® 65%カロリーカット」など



マヨネーズボトル水平リサイクルのイメージ

国内のマヨネーズボトルには、主にポリエチレン(以下PE)というプラスチック素材が使用されています。PEは食品包装に多く使用されていますが、素材の種類や他素材と複合しているものが多いことから、飲料PETボトルに代表されるような水平リサイクル<sup>※2</sup>の仕組みが社会的に実装されていません。

また、マテリアルリサイクル<sup>※3</sup>による水平リサイクルを実現するためには、マヨネーズボトルと同じ素材のプラスチックを回収し、きれいに洗浄した上で、リサイクルすることが重要になります。

※2 水平リサイクルとは、限りある資源を有効に使用するため、使用済み商品の容器・包装を原料として循環させ、再び同じ種類の商品容器・包装を製造することです。

※3 マテリアルリサイクルとは、リサイクル手法の一つで、廃棄物をその性質を変えずに、原料として再利用する方法です。

本取り組みでは、これらの課題に対してキューピー(株)と味の素(株)が企業の枠を超えて協働することで、マヨネーズボトルを資源循環できる社会の実現を目指します。

## ■協働の目的

### 1. 水平リサイクルに向けた技術の確立

国内のPE マヨネーズボトルの水平リサイクルにおける技術検証は、先行事例に乏しく、社会実装に向けては多くのデータを収集し、技術的な知見を集め、評価の仕組みを構築する必要があります。マヨネーズを長く扱ってきた両社の知見を組み合わせることでこの難題を解決し、水平リサイクルを社会実装するために必要な技術を確立していきます。

### 2. 使用済みマヨネーズボトル回収の仕組み作り

現状、使用済みのマヨネーズボトルは、可燃ごみやプラスチックごみと区別されています。これらが「ごみではなく、資源である」と社会の意識を変えることを目指し、両社は、家庭での使用済みマヨネーズボトルの回収が促進されるよう、CLOMAの参画企業であるリサイクル会社や素材メーカー、流通、自治体と協力して仕組みを確立するとともに、啓発活動を積極的に展開していきます。

対象商品 ー 例



## 【会社概要】

### ■キューピー株式会社

代表者：代表取締役 社長執行役員 高宮 満  
所在地：〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-4-13  
売上高：(連結) 4,550億86百万円 (2023年度)  
従業員数：(連結) 10,642人 (2023年11月末現在)  
事業内容：「マヨネーズソース」その他一般ソース類の製造販売 等

### ■味の素株式会社

代表者：取締役 代表執行役社長 最高経営責任者 藤江 太郎  
所在地：〒104-8315 東京都中央区京橋1-15-1  
売上高：(連結) 1兆4,392億31百万円 (2023年度)  
従業員数：(連結) 34,615人 (2023年3月31日現在)  
事業内容：調味料・食品、冷凍食品、ヘルスケア等製品の製造販売 等

本件に関するお問い合わせ先

キューピー株式会社 広報・グループコミュニケーション室 稲垣・森田  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1-4-13  
TEL:03-3486-3051 E-mail:pr@kewpie.co.jp  
※キューピーのユは大文字を使用しています

味の素株式会社 グローバルコミュニケーション部  
〒104-8315 東京都中央区京橋一丁目 15 番 1 号  
本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先：[Pr\\_media](mailto:Pr_media)

**【関連情報】**

キューピー(株)公式サイトより サステナビリティサイト

<https://www.kewpie.com/sustainability/>

味の素(株)公式サイトより サステナビリティ活動紹介ページ

<https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/activity/>

クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス公式サイト

<https://cloma.net/>